

2012(平成24)年9月26日

大学通信教育等における情報通信技術の活用に関する

調査研究協力者会議(第2回) 参考資料

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程の 概況と情報通信技術の活用

高橋陽一(武蔵野美術大学)

I 沿革 — 60年を超える通信教育の伝統

1929(昭和4)年10月30日創立の帝国美術学校からの建学の精神を堅持して、「教養を有する美術家養成」を社会に開かれたものとして実現するために、早期から通信教育に取り組み、美術系の大学通信教育のパイオニアとなっている。

1951(昭和26)年4月	武蔵野美術学校(1948年名称変更)に西洋画通信教育部を開設。
1959(昭和34)年4月	武蔵野美術短期大学(1957年～2003年)に通信教育部を開設。 (のち武蔵野美術大学短期大学部に名称変更)
2002(平成14)年4月	武蔵野美術大学造形学部(1962年～)に通信教育課程を開設。

II 概要 — 約3000名の通信教育課程

学部(通学)4000、学部(通信)3000、大学院200の概数が10年近い平均像である。数値はホームページ等で情報公表したものだが、通用の「定員充足率」という表現には、選抜入試でない書類選考による「全入」が社会的使命となる大学通信教育では、違和感がある。

■通信教育課程の学生数 2012(平成24)年5月1日現在

通信教育課程 4学科	入学定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員	学生 数	定員 充足 率	通信教育課程9コース	総合課程		専門課程		合計
								1年	2年	3年	4年	
油絵学科	200	20	60	980	1372	1.40	油絵コース	82	381	106	284	853
							日本画コース	29	169	54	120	372
							版画コース	6	44	24	73	147
工芸工業デザイン学科	150	15	45	735	459	0.62	生活環境デザインコース	34	158	25	97	314
							スペースデザインコース	17	70	18	40	145
芸術文化 学科	100	10	30	490	533	1.09	造形研究コース	6	31	16	81	134
							文化支援コース	19	65	65	250	399
デザイン 情報学科	150	15	45	735	593	0.81	コミュニケーションデザインコース	52	292	42	141	527
							デザインシステムコース	4	41	4	17	66
合計	600	60	180	2940	2957	1.01	合計	249	1251	354	1103	2957

科目等履修生129名(一般16、現任教員の教職生2、教職又は学芸員課程履修の卒業生特例104、入学資格を得るための特修生7)

■通学課程の学生数 2012(平成24)年5月1日現在

通学課程	学科等	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率
大学院造形	博士後期課程1専攻	6	18	14	0.78
研究科	修士課程2専攻	54	108	233	2.16
造形学部	11学科(通学のみ)	986	4062	4297	1.06

■通学と通信の学費の比較

	入学金	授業料	その他費目	年間合計
通学課程	360,000	1,185,000	実習費(学科別)、 維持費、施設費	1,904,500円～1,940,500円 (2年次以降 1,544,500円～1,580,500円)
通信教育課程	30,000 (選考料 10,000)	285,000	スクーリング受 講料 13,000円× 6～8単位	429,000円(1年次8単位) ～363,000円(3年次6単位)

■教員数 2012(平成24)年5月1日現在

教授 128名、准教授 10名、専任講師 3名(以上専任教員 141名)、
客員教授 25名、講師(非常勤) 691名、助手 54名、教務補助員 63名

(うち通信教育課程研究室は専任教員11名、助手5名、教務補助員8名)

■通信教育課程の教職員組織

「通信教育課程」は吉祥寺校に通信教育課程事務部と通信教育課程研究室を置く。課程長を責任者とし、造形学部のすべての教育単位による教務委員会を置く。造形学部全体が通信教育を担うとともに、日常的に専ら通信教育を行う教職員が責任を持つ体制である。

Ⅲ 通信授業と面接授業を組み合わせた授業

美術の実技教育のためには、専門的な教科書と課題に取り組むための丁寧な学習指導書による通信授業(印刷教材などによる授業)と、面接授業を一つの授業の中で組み合わせて実施することが効果的である。

■「絵画Ⅰ」4単位の例 1年次油絵コース指定の造形総合科目

通信授業 2単位		面接授業 2単位	
印刷教材	『絵画—素材と技法』 『絵画—アートとは何か』 『絵画ⅠⅡ学習指導書』	面接授業	1日10時間相当×6日=60時間 (1日の実質授業7時間30分) 前提講義、2回の採点と講評
通信授業課題	① 指定された静物のクロッキー ② ①と同モチーフの木炭デッサン ③ ①と同モチーフの油彩制作 *通常は1単位あたり1作品	面接授業課題	① 指定された静物をモチーフにした木炭デッサン ② ①と同モチーフの油彩制作 20号キャンバス

■ 造形の実技の授業の用語の違い

一般的な用語	実技の授業としての用語
卒業論文	卒業制作（造形専門科目通信4単位面接2単位）
科目試験・修了試験	講評（ただし理論系の科目では科目試験を実施）
レポート・リポート	作品（課題作品）

■ 授業科目の組み合わせ

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程規程別表による

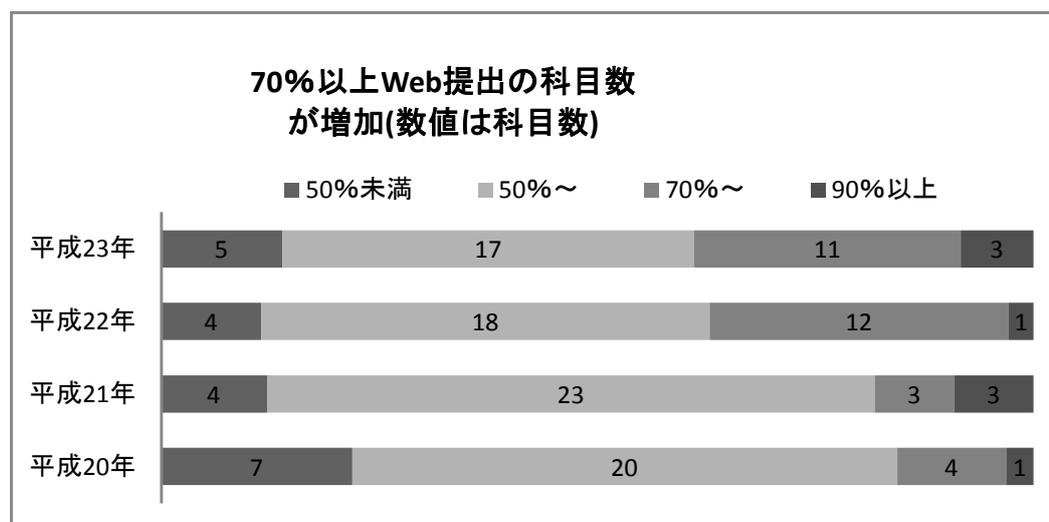
授業科目区分	通信授業のみ	面接授業のみ	通信授業と面接授業	メディア授業と通信授業	合計
造形文化科目	48	10	3		61
造形総合科目	12	9	30	2	53
造形専門科目	6		51		57
教職に関する科目	12	3	6		21
合計	78	22	90	2	192

重複する学芸員課程科目等を省略してダブルカウントをしていない。

IV 通信授業を含む情報通信技術の活用

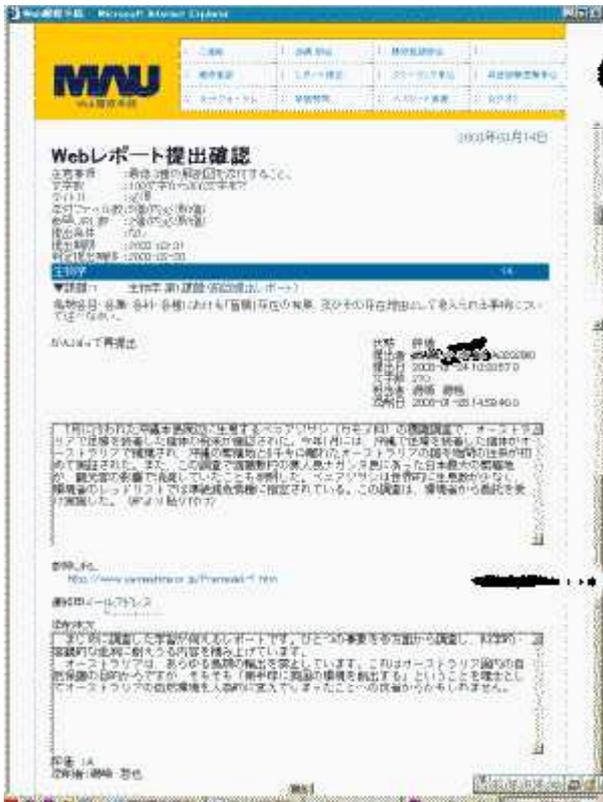
造形学部通信教育課程は2002(平成14)年の開設時から、従来の短期大学部通信教育部との違いとして、「教育情報システム」による情報通信技術の活用に取り組んだ。これにより、履修登録、成績確認、面接授業申し込みなどの事務手続きとともに、通信授業のレポート提出もインターネット経由で可能となった。また、研究室における学生提出作品(絵画)の指導用デジタルデータベース作成なども進んでいる。

■ 通信授業でのインターネット経由のレポート提出



実技系ではない「造形文化科目」と「教職に関する科目」では、レポート提出の方式として、平成24年度現在では1科目がWebのみ、36科目が郵送とWebのみ、32科目が郵送

のみである。提出レポートは、Web 経由が増加しているが、インターネットを使用できない学生も考慮して、両方式を同時に行う配慮と努力が必要となっている。



← 学生用のレポート提出画面。レポートや学習質問の受理の確実性から、電子メールでの提出は認めていない。教員は教員用の画面でコメント記入や成績評価を行う。

↓ ネットフォーラムの画面



■ 通信授業の学習支援のための「造形ファイル」



実技系の教科書や学習指導書で多く作成される技法や用具用材などについて、インターネット上で文字と動画静止画により説明するページを運営している。

2007年の文科省現代GPに選定され、一般公開とともに教員や学芸員が教材開発を行うためのツールとしても工夫された。

■メディア授業と通信授業の組み合わせ

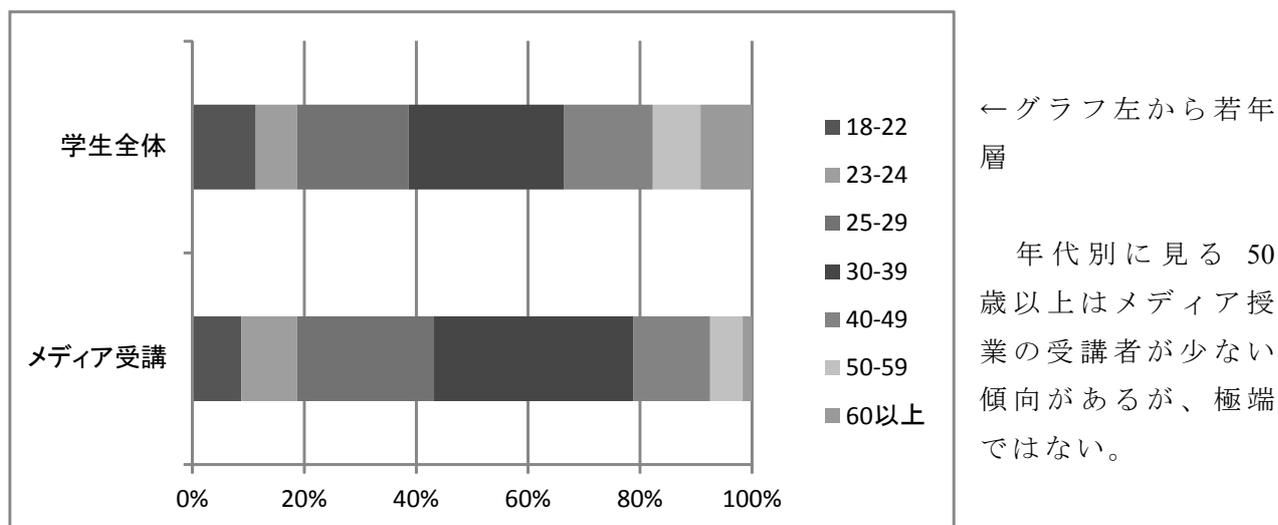
授業科目	通信授業 1 単位の課題	遠隔授業 1 単位の課題
デザインⅡ	② Web ページの制作（データや指定サイトへの書き込みなどの提出）	① Web ページ制作のためのサイトでのコミュニケーション * 企画書等の 6 回の提出等の出席確認
コンピュータグラフィクス	① デジタルコラージュ（手書きエスキース 2～3 点と画像ファイル）	② Web ギャラリー（html ファイルと画像ファイル） * ネットフォーラムでの講義等の出席確認

デザインⅡとコンピュータグラフィクスは、ともに通信授業 1 単位と面接授業 1 単位の 2 単位科目である。1 単位分が非同時双方向の「メディアを利用して行う授業」であるが、実技授業として課題作品を位置づけるので、通信授業と組み合わせている。

■平成23年度のメディア授業受講者の年齢段階別比較

年代	18-22	23-24	25-29	30-39	40-49	50-59	60以上	総計
メディア受講	21	24	59	86	33	14	4	241
学生全体	361	235	636	882	508	272	293	3187

*「メディアを利用した授業」2科目受講者数は今回のための仮集計である。



V おわりに

知識基盤社会のなかで、情報通信技術を活用したメディアコンテンツを生み出すために不可欠な人材を養成するのが美術大学である。通信教育課程ではメディアリテラシーの基礎的授業を行い、教育情報システムを改善して学生による情報通信技術の活用を奨励して、その成果がレポート提出の状況でもみることができる。しかし、現在の「メディアを利用して行う授業」で規定された二つの方式は、講義やゼミの授業を前提としているために、美術の高等教育では「面接授業」に置き換わるだけの教育効果は簡単には認めにくい。本学に限らず、多様化し高度化する大学通信教育においては、法令の検討とともに、地道な情報通信技術の工夫が必要となろう。